(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2005-306830
(P2005-306830A)
(43)公開日　平成17年11月4日(2005.11.4)

(51)Int.Cl.[7]	F I		テーマコード（参考）
A01N 25/00	A01N 25/00	102	2B121
A01N 25/02	A01N 25/02		4H011
A01N 25/04	A01N 25/04		
A01N 53/08	A01N 57/28	F	
A01N 57/28	A01N 53/00	508C	

審査請求 有　請求項の数 4　書面　（全 9 頁）　最終頁に続く

(21)出願番号　特願2004-151046 (P2004-151046)
(22)出願日　平成16年4月20日 (2004.4.20)

（特許庁注：以下のものは登録商標）
1．セロテープ

(71)出願人　598010768
有限会社特許情報サービス
愛知県名古屋市東区芳野１丁目１２番９号
(72)発明者　植野　泰夫
愛知県名古屋市東区芳野１丁目１２番９号

Fターム(参考)　2B121 AA11 BB28 BB32 CC02 CC11
CC21 CC25 EA01 EA21 FA01
FA06 FA07 FA12 FA13 FA16
4H011 AC01 BA01 BB15 BB17 BC01
BC18 BC19 DA14 DE15 DH13

(54)【発明の名称】害虫駆除剤の撥水性固定散布方法

(57)【要約】　（修正有）
【課題】風雨に強く、駆除剤成分の有効性を長期間維持できる耐候性を増加した害虫駆除剤の撥水性固定散布方法を提供する。
【解決手段】揮発性疎水性溶剤にパラフィンを添加した分散液又は溶液に、粉状駆除剤又は駆除有効成分を添加し撥水性配合分散液又は撥水性配合溶液をそれぞれ調製する工程と、これらの配合液を直接に害虫駆除対象家屋などに塗布又は噴霧するか、これら配合液を含ませたシート、テープ、発泡体等を配置する工程から構成される散布方法である。
【選択図】なし

【特許請求の範囲】
【請求項１】
パラフィン系炭化水素、好ましくは融点の比較的低いパラフィンに、相溶性の揮発性疎水溶剤、好ましくは安価なペイント希釈溶剤などに、一部溶解させ、分散させた揮発性パラフィン分散液を、又は完全溶解させた揮発性パラフィン溶液を、それぞれ調製し、前記揮発性パラフィン分散液、又は揮発性パラフィン溶液に、粉状又は液状の殺虫性、忌避性、又は誘引性の有効成分含有の粉状又は液状害虫駆除剤を添加し、撥水性配合分散液（Ａ）又は撥水性配合溶液（Ｂ）をそれぞれ調製し、散布すべき対象物全体又は一部に直接に又は被覆手段を介し先天的又は後天的に、前記撥水性配合分散液（Ａ）を塗布し、又は前記撥水性配合溶液（Ｂ）を噴霧し、前記散布対象物又は被覆手段上に、該撥水性配合分散液（Ａ）及び撥水性配合溶液（Ｂ）をそれぞれ散布する害虫駆除剤の撥水性固定散布方法。
【請求項２】
前記被覆手段がシート状、テープ状、多孔質、又は発泡状のそれぞれ相当する紙、織布、不織布、又は化成物の支持部材であり、前記支持部材の表面に、先天的又は後天的に前記撥水性分散液（Ａ）を塗布し、又は前記撥水性配合溶液（Ｂ）を噴霧し、それぞれ蒸発乾燥させてなる前記請求項１記載の害虫駆除剤の撥水性固定散布方法。
【請求項３】
前記撥水性配合分散液（Ａ）又は撥水性配合溶液（Ｂ）に粘着性物質を添加し溶解又は分散させ、粘着性を付与し、必要に応じ、前記対象物に調和させ又は前記害虫駆除剤の存在を確認するために色材を、又は前記害虫駆除剤の酸化分解防止に酸化防止剤をそれぞれ添加してなる前記請求項１又は２記載の害虫駆除剤の撥水性固定散布方法。
【請求項４】
前記撥水性配合分散液（Ａ）は前記対象物が、好ましくは、住居建物及び倉庫等の出入口、敷居又は境界面、コンクリート壁、門、家具、調理台周辺などであり、前記撥水性配合溶液（Ｂ）は該対象物が、好ましくは、床下、縁の下、天井裏、窓、雨戸、網戸、屋根、庭木、垣根の木々、藪、植物、雑草、地面、池もしくは畑又は屋敷の水溜り等であり、該撥水性配合分散液（Ａ）及び撥水性配合溶液（Ｂ）の駆除対象害虫が、好ましくは、黒蟻、白蟻、赤蟻、羽蟻、ゴキブリ、ワラジムシ、ムカデ、ヤスデ、ダンゴムシ、ガユスリカ、キクイムシ、毛虫、ゲジゲジ、カメムシ、シバンムシ、アブ、ブユ、アリガタ蜂、スズメ蜂、蝿成虫、蚊成虫、南京虫、イエダニ、蚤などの周辺環境における害虫一般を含んでなる前記請求項１、２、又は３記載の害虫駆除剤の撥水性固定散布方法。
【発明の詳細な説明】
【発明の詳細な説明】

【産業上の利用分野】
【０００１】
本発明は、家屋の建物、コンクリート、塀、垣根、土壌面、家具、立木、植物などの一部に局部的に害虫駆除剤の配合液を塗布するか、シート、テープ又は発泡体などに含ませることにより、駆除剤の分散を防止し、撥水性を増す「害虫駆除剤の撥水性固定散布方法」に関する。　特に、害虫駆除剤が水分による水和反応により分解するため、風雨に強く、駆除剤成分の有効性を長期間維持し、耐候性を増加する撥水性駆除剤を散布する方法に関する。さらに、本法は粉状又は液状の駆除剤の両方ともに適用可能で安価で簡便に害虫駆除剤を散布する方法である。　なお、本法において、駆除剤とは殺虫性、忌避性、又は誘引性を有する害虫駆除剤を意味し、これに害虫とは周辺の殆どの種類の害虫であり、実際には本報に記述される害虫の種類を積極的に指すものとする。
【背景技術】
【０００２】
従来の駆除剤散布には、粉末状散布、砂状粒子散布、水、溶剤や乳化剤で希釈したスプレー散布、煙霧によるエーロゾル方式のほか、粘着テープなど、様々である。いずれも、風雨や日光に弱く、大量の散布量の割に効果が少なく、特に、粉状駆除剤散布は一様に散

布することは難しく、長期間その駆除剤有無を確認することはできない。
【０００３】
害虫駆除剤を酢酸ビニル・エマルジョンの水溶液に含ませ塗布する方法があるが、塗布後、酢酸ビニル・ポリマーの硬い乾燥膜により害虫駆除剤が内部に取り込まれ、駆除効果が半減されるばかりか、駆除剤によっては、水分との水和反応により、駆除剤分解により効果が時間とともに消失する問題がある。　また、乳化剤とともに、駆除剤を乳化噴霧器により、害虫駆除業者などが、縁の下や広範囲の場所の害虫駆除剤を散布しているが、上記と同様な理由で、駆除剤の実際の効果をあげていないが実情である。　従来から、この種の技術革新が模索されてきた。
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
従来の粉状害虫駆除剤は、散布後風や雨で消失し、折角の散布も一瞬に無駄で一時的なものである。　幾度も散布を繰り返し経費も嵩み、散布状態も疎らで、害虫は簡単に乗越え駆除効果は低い。
【０００５】
一方、粉状でない害虫駆除剤の場合、噴霧し溶剤が蒸発した後、駆除剤の有機化合物成分は微量であり、目に見えない。　実際、駆除剤の有効成分は直射日光や空気酸化による分解、水との水和反応による分解の他に、風雨に土壌や水とともに流失されて、実際その有効性は甚だ使用者には疑問が残される。
【０００６】
この点で、粉状駆除剤散布は、その駆除剤を含有する粉体の色により使用者に散布後の安心感を与える。　実際、これらの粉状粒子は、駆除剤成分の有機化合物を含有しており、粉状粒子には有機化合物成分の直射日光や空気酸化による分解防止作用がある。
【０００７】
他方、散布後には粉体の色が顕著であり、見た目に汚く、土壌や環境を酷く汚染し、生態系に対する広く将来的に未知であり、グローバル規模の問題がある。
従って、駆除剤の分散を防止し耐候性を強化する方法の技術開発は不可欠である。　不必要の季節に、又は駆除効力消失の時点で撤去可能なことが望ましいことは言うまでもない。　上記の様に、決定的な駆除剤散布革新技術の確立が強く要望され、駆除剤散布方法の技術革新が至上命令となっている。
【課題を解決するための手段】
【０００８】
上記の課題を解決するため、本発明者は検討を重ね鋭意研究の結果、本発明を開示するに至った。　本発明者は、撥水剤、色材を用い、塗布用配合分散液（Ａ）又は噴霧用配合溶液（Ｂ）を使用し、長期間、多く野外実験と検討を重ねた。　ここに本発明の「害虫駆除剤の撥水性固定散布方法」を完成したので開示する。
【０００９】
一般に、殺虫剤の有効成分は水分子との水和反応をおこしたり、空気酸化や直射日光下で容易に分解してしまうものが多い。　まず、有効成分を保護する目的で、駆除剤含有の撥水性分散液又は溶液を調製した。　さらに、透明な撥水性溶液の散布に対しても、視覚的確認のため色材を添加する。
【００１０】
即ち、パラフィン系炭化水素、好ましくは融点の比較的低いパラフィンに相溶性の揮発性疎水溶剤、好ましくは安価なペイント希釈溶剤などに一部溶解し、分散状の揮発性パラフィン分散液を、又は完全溶解させた揮発性パラフィン溶液を、それぞれ調製する。
【００１１】
上記揮発性分散液又は揮発性溶液に粉状又は液状の殺虫性、忌避性、又は誘引性の有効成分を有する粉状又は液状の害虫駆除剤を添加し、撥水性配合分散液（Ａ）又は撥水性配合溶液（Ｂ）を、それぞれ調製する。
散布対象物全体又は一部に直接に又は被覆部材を介し先天的又は後天的に撥水性配合分

散液（Ａ）を塗布し、又は撥水性配合溶液（Ｂ）を噴霧することにより、それぞれ散布する方法である。

【００１２】

また、撥水性配合分散液（Ａ）又は撥水性配合溶液（Ｂ）に粘着性物質を添加し、溶解又は分散させ、粘着性を付加し、必要に応じ、散布対象物に調和させ又は害虫駆除剤の存在を確認するために色材を、又は害虫駆除剤の酸化分解防止に酸化防止剤をそれぞれ添加する。

【００１３】

撥水性配合分散液（Ａ）は散布対象物が、好ましくは、住居建物及び倉庫等の出入口、敷居又は境界面、コンクリート壁の下部、門、家具、調理台周辺など、であり、撥水性配合溶液（Ｂ）は該対象物が、好ましくは、床下、縁の下、天井裏、窓、網戸、屋根、庭木、垣根の木々、藪、植物、雑草、地面、池、畑や屋敷の水溜り等であり、前者（Ａ）及び後者（Ｂ）の駆除対象害虫が、好ましくは、黒蟻、白蟻、赤蟻、羽蟻、ゴキブリ、ワラジムシ、ムカデ、ヤスデ、ダンゴムシ、ガユスリカ、キクイムシ、ゲジゲジ、毛虫、カメムシ、シバンムシ、アブ、ブユ、アリガタ蜂、スズメ蜂、蝿成虫、蚊成虫、南京虫、イエダニ、蚤、虱など周辺環境における害虫一般である。

【００１４】

撥水性配合分散液（Ａ）又は撥水性配合溶液（Ｂ）を紙、織布、又は化成品などの多孔質又は平滑なシート、テープ、又は発泡状の支持部材の表面に塗布又は噴霧後それぞれ乾燥させ、商品化された製品を製造することもできる。なお、必要に応じ対象物のバックグランドに対する色彩に配慮し、色材を撥水性配合分散液（Ａ）又は撥水性配合溶液（Ｂ）に添加する方法である。

【作用】

【００１５】

一般に、ただ散布された殺虫剤だけでは風雨で流され消失するので、幾度も散布しなければならない。　このため、パラフィンを揮発性疎水溶剤に分散又は溶解し、続いて駆除剤を分散又は溶解させ、さらに粘着剤、色材又は酸化防止剤を添加した撥水性配合分散液（Ａ）又は撥水性配合溶液（Ｂ）を調製する。　これら配合液（Ａ）又は（Ｂ）を直接に散布対象物又は被覆部材に、それぞれ塗布又は噴霧することにより、もしくは、塗布又は噴霧したシート又はテープを貼り付けることにより、風雨に耐える駆除剤の幅広の帯状地帯を提供し、害虫を駆除できる。

【００１６】

大半の駆除剤の有効成分は長期間に水分子と水和反応を起こし分解するがパラフィン添加効果により、この種の水和反応を防止される。　また、風雨に耐える働きをするのみでなく、さらに特有の低融点パラフィンの粘着性により、松脂、ロジン、高分子低重合ポリマー、又は害虫駆除業者の害虫用粘着剤（例、イカリ消毒（株）製）等の添加により、粉状害虫駆除剤の粉体を有効成分とともに害虫の体に付着させて害虫を死に至らしめる重要な役割を果たす。

【００１７】

撥水性配合分散液（Ａ）に関しては、分散液の蒸発に際し、粉状駆除剤成分の有機化合物は溶剤の蒸発とともに、溶剤分子により粉状粒子表面に運ばれて移動し、有機化合物濃度は粉状粒子表面でリッチになる。　これは、有機化合物の溶剤中での拡散速度と溶剤の蒸発速度の物理化学的相関に基づいており、駆除剤の効果は増進されることになる。

【００１８】

さらに、撥水性配合溶液（Ｂ）に関しては、撥水性配合溶液を噴霧する方法により家屋の縁の下や天井裏を処理する場合には、生成エーロゾルは、縁の床下面、土壌面に、又は天井裏に付着し長期にわたり駆除の役割を果たす。

また有効成分を用い、蒸発後に透明な散布を残す場合、色材による僅かな着色により散布状態を視的に確認することができる。

【００１９】

なお、予め市販の紙製、布製、又は化成品製の比較的幅広テープ又はシートを塗布又は噴霧する前に被覆部材として貼付けた後に、これらのテープ又はシート面に撥水性配合分散液（Ａ）を塗布するか、又は撥水性配合溶液（Ｂ）を噴霧する場合、本来の散布対象物を汚染することなく、このテープ又はシートを使用後には撤去することができる。　予め製品化した塗布又は噴霧幅広テープ又はシートを貼り付けた場合、使用後に撤去することができる。

【実施例】

【００２０】

以下、本発明を実施例により詳細に説明するが、これらの実施例及び変形例は単に一例に過ぎなく、本発明はこれらに限定されるものではない。　本発明に基づく技術思想に係る実施可能な変形例の態様の全ては本願発明に含まれる。

【００２１】

実施例　１

粉状駆除剤の撥水性配合分散液（Ａ）は、融点が比較的低いフィレット状のパラフィンをペイント希釈溶剤に添加し、最大限に溶解させ分散させた揮発性のパラフィン分散液を調製する。　パラフィンの溶解平衡は実際には観察されず、長時間を経て溶解する。パラフィン過剰の場合には、パラフィンは膨潤し分散状態で浮遊する。したがって、使用時に適当な分量で溶解又は分散させた揮発性パラフィン各液を調製する必要がある。　本発明者はパラフィンとして一般に窯業の釉薬の絵付けに使用される安価な工業用パラフィン原料を使用しており、融点が３段階ある製品の融点が一番低いフィレット状の製品を特に好んで使用した。

【００２２】

さらに、この揮発性パラフィン分散液に、必要なら粘着剤、例えば、プラクティサイザー、高分子粘着剤、松脂、ロジン、他に色材、例えば、ベンガラ、酸化チタン、クリスタルバイオレット、パテントブルーなどを添加する。　次に、パラフィン分散液に、粉状駆除剤を、例えば、市販のものとして、虫コロリアース（商品名、アース製薬（株）製）、不快性害虫駆除粉末剤（商品名、武田薬品（株）製）、オルトラン（商品名、武田薬品（株）製）など、を攪拌し、実情に合わせて適当量を混合し、撥水性配合分散液（Ａ）を調製する。駆除剤は業者用の、例えば、２０キロ入りなどの製品を使用した。

これら粉状駆除剤には、バックグランドとの色彩を考慮する。しかし、撥水性配合分散液（Ａ）の乾燥時はこの配合分散液（Ａ）の色とは幾分異なる色となるので注意する。色材として、例えば、バックが赤レンガであれば、べんがら、白壁には、酸化チタンを少量添加し、夫々調和させる。　なお、粉状駆除剤使用の場合は、色材が染料であっても粉体に染料が吸着される。しかし、市販の粉状駆除剤の色は概して淡色であり、淡い土色又はコンクリートの色に近いものもあり、色材添加の必要がない場合が多く、少し色調の調整を配慮すれば良い。

【００２３】

上記撥水性配合分散液（Ａ）の場合には、攪拌下で、例えば、建物の出入口付近や壁下部の垂直面に長く幅広く帯状に刷毛で分散液（Ａ）を塗布する。　塗布と同時に溶剤は乾燥する。塀又は壁に対しては、垂直壁に沿って長く途切れることなく３－１０ｃｍほどの幅で塗布すると、害虫はその帯状の塗布膜に沿って歩く習性がある。　平面状の床面には長く垂直壁に沿って塗布する。　家屋の下部の垂直壁に沿っても同様に塗布し、垂直壁に沿って床面に長く塗布する。

出入口の扉の箇所では垂直壁に塗布することが好ましい。　なお、塗布前に、市販の紙テープなどのクラフトテープ、建築塗装用紙テープ、布テープ、化成品テープなどのセロテープを塗布予定箇所に貼り付けた後に、これらの表側の片面に一様に塗布することができる。

【００２４】

なお、帯状粉状駆除剤層の厚さは、分散液（Ａ）に分散している粉状駆除剤濃度に依存する。　当然、厚ければ効果はそれだけ顕著であり、長持ちする。　長期間の使用で破損

し修理する場合、上記揮発性パラフィン分散液に少量の粉状駆除剤を添加混合し、破損箇所を刷毛で塗布すれば修理できる。

上記撥水性配合溶液（Ｂ）の場合には、同様に噴霧することができる。　この様に塀や外壁の地上近く、垂直面に幅広く塗布することもできる。　以上の様に、家屋の周りを平面や垂直壁に帯状に塗布し害虫の侵入を防止することができる。

特に、上記撥水性溶液（Ｂ）を噴霧する場合は、例えば、天井裏、床下又は縁の下のほかに、蟻の巣の回りに囲む様に庭木の根元付近の周囲を適当な幅で噴霧して、害虫の通過を防ぐことも、木立や庭木を全体に噴霧して害虫を退治し、暫くの期間の間、風雨に耐候性のある駆除持続効果を継続することもできる。　噴霧により、天井板裏側、縁の下の柱や石に、木の葉や幹に付着し、有効成分が長期間も付着し、駆除効果が持続され、害虫が通過することが防がれる。

【００２５】

実施例　２

粉状駆除剤の代わりに、有効成分に着目し、本法を適用できる。　殺虫性を有する害虫駆除有効成分として以下のものが列挙される。　例えば、ピレスロイド系ベルメトリン、フェノトリン、ｄ－Ｔ８０－シフェノトリン、ｄ－Ｔ８０－レスメトリン、ＭＧＫ－２６４、カーバメイト系のカルバリン、スリン系のフタルスリン、ｄ－Ｔ８０－フタルスリン、チオン系のフェニトロチオン、サルバメート系のプロポクスル、オキサジアゾール系のメトキサジアゾン、及び、さらに、サルチル酸フェニル、ジクロルボス、ヒドラメチルノン、パラチオンなどの少なくとも一つ以上を、揮発性パラフィン溶液に添加し、撥水性配合溶液（Ｂ）を調製することができる。　この際、撥水性配合溶液（Ｂ）を塗布又は噴霧により、上記と同様に殺虫剤の幅広の帯状地帯を形成することができる。

また、忌避剤の有効成分として、例えば、フタル酸辞メチル、２－エチル－１，３－ヘキサンジオール、インダロン、ジメチルカーベート，　Ｎ，Ｎ－ジエチルスクミンアミド酸プロピル、安息香酸ベンジル、Ｎ－ブチルアセトアニリド、１，３－プロパンジオール、Ｎ－ブチル汗とアニリド、２－ブチル－２－エチル－１，３－プロパンジオールの少なくとも一つ以上を使用することができる。

さらに、誘引剤として、一般に脂肪酸のアルコールエステルを用いるが、これには、多くの昆虫が誘引されるので、これらの少なくとも一つ以上を使用することができる。

酸化防止剤として、キノン類、アミン類、フェノール類などが有効であるが、例えば、ヒドロキノンなどを添加する。現在最も多く使用されている硫黄－燐化合物であるジチオリン酸塩を添加しても良い。

必要に応じて、色材として油溶性の染料を使用することもできる。

【００２６】

実施例　３

実際に、揮発性パラフィン分散液、又は揮発性パラフィン溶液を調製後、これに市販の粉状害虫駆除殺虫剤を攪拌下に混合して撥水性配合分散液を調整することも簡単にできる。　一方、溶剤型駆除殺虫剤の場合には、殺虫剤含有する市販の揮発性溶液に、パラフィン溶液又はを適宜混和すればよい。　また、例えば、虫コロリアース、ツーゴン、オルトラン及びその他、不快性害虫駆除粉状殺虫剤などを攪拌下に揮発性パラフィン溶液に分散させて撥水性配合分散液（Ａ）を調製することもできる。

これら撥水性配合分散液（Ａ）又は撥水性配合溶液（Ｂ）使用の場合は、例えば、黒蟻、白蟻、赤蟻、羽蟻、ゴキブリ、ワラジムシ、ムカデ、ヤスデ、ダンゴムシ、ガユスリカ、キクイムシ、ゲジゲジ、毛虫、カメムシ、シバンムシ、アブ、ブユ、アリガタバチ、スズメ蜂、ハエ成虫、蚊成虫、南京虫、イエダニ、蚤、虱などにも適用される。なお、撥水性配合溶液（Ｂ）を噴霧する散布では、庭木、藪、畑、縁の下、床下、天井裏、窓などに適用することができる。

【００２７】

実施例　４

紙製、又は布製のシート状又はテープ状の素材、例えば、幅５０ｍｍのテープなどの片

面に撥水性配合分散液（Ａ）又は撥水性配合溶液（Ｂ）を、それぞれ塗布又は噴霧したものを、溶剤を蒸発乾燥させて、駆除剤塗布面又は噴霧面を片面側に形成させる。ロール上に巻き上げて製品化することもできる。

また、これらを留め金、粘着テープ、又はホッチキスにより、例えば木製の塀や家屋の下部に垂直面に固定することができる。幅広くセットする場合は、平行に２－３列に配置することにより、駆除効果をさらに高めることができる。

【００２８】

実施例　５

発泡体、例えば、細長いスチレンやウレタンフォームに塗布又は噴霧して、染込ませたものを配置し、不要時には撤去し、必要時にはこれを再度配置する。さらに、これに撥水性配合分散液（Ａ）又は撥水性配合溶液（Ｂ）を、それぞれ塗布又は噴霧し、駆除効果を高めて、何度も利用することができる。

【００２９】

実施例　６

デモンストレーションのため、第１図に本発明者自宅の石垣や垣根の境界下部に撥水性配合分散液（Ａ）を塗布し、若干例の写真を例示した。　これらの塗布面は風雨に耐え、長期間維持されることが観察された。

なお、撥水性配合溶液（Ｂ）の噴霧による例は、視的にはその効果は明白であるが、写真のコントラストが少ないため、ここでは写真の記載を割愛した。

また、周辺環境を損なわず美化し、これら害虫駆除の有毒物質の安全性確保の一助となり、将来の生態系に対しても配慮し、地球環境保護に貢献する新規な技術革新であることは明白である。

【発明の効果】

【００３０】

本発明の害虫駆除剤の撥水性固定散布方法は、駆除殺虫剤の分解を防止し、風雨や直射日光に強く、幅広の塗布又は噴霧散布した駆除剤の耐候性を増加する効果を奏する。

本発明の害虫駆除剤の撥水性固定散布方法は、無駄なく効率的に駆除剤の帯状地帯を与え、害虫の侵入を防止する効果を奏する。

本発明の害虫駆除剤の撥水性固定散布方法は、旧方法の度重なる散布地帯の無差別散布による環境汚染を防止し、有効に駆除剤を局部的に、しかも集中的に適用し活用する効果を奏する。

本発明の害虫駆除剤の撥水性固定散布方法は、必要箇所に長期間維持され、損傷箇所も同様な配合液で補修可能であり、長期間維持する効果を奏する。

本発明の害虫駆除剤の撥水性固定散布方法は、粉状駆除剤に際し、対象物と調和する色材により、違和感を与えずに、環境を美化する効果を奏する。

本発明の害虫駆除剤の撥水性固定散布方法は、対象物面上に配置した多孔質又は平滑状シート又はテープ上に塗布又は噴霧することにより、不必要時に簡単に撤去可能であり、又は繰返し再使用可能な効果を奏する。

本発明の害虫駆除剤の撥水性固定散布方法は、色材又は染料を添加し、透明な駆除剤塗布又は噴霧を視覚的に確認させ長期モニター可能な効果を奏する。

本発明の害虫駆除剤の撥水性固定散布方法は、撥水性溶解分散液又は撥水性溶液の部分と粉状又は液状殺虫剤の溶液又は分散液の各部分とし、夫々を必要時のため個別に長期保存し、適宜混合即時使用セットの製品化効果を奏する。

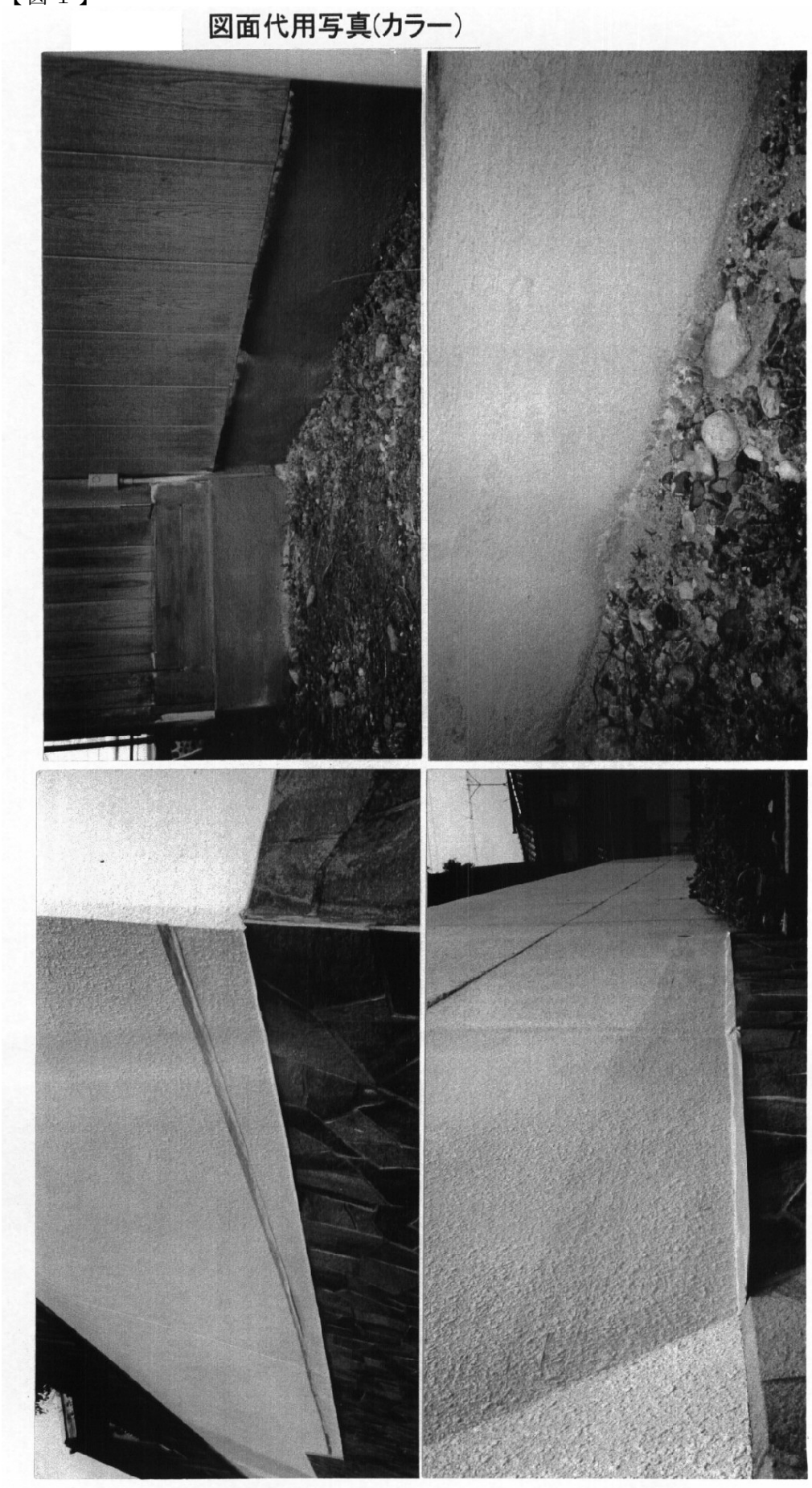
本発明の害虫駆除剤の撥水性固定散布方法は、撥水性配合分散液又は溶液の塗布又は噴霧テープに製品化する効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【００３１】

【図１】　本発明に係る撥水性固定散布方法を示す一実施例の写真である。

【図１】



第1図　石垣の門及び屋敷基礎部に対する本発明に係る撥水性固定散布方法を示す一実施例の写真

フロントページの続き

(51)Int.Cl.[7]	FI		テーマコード（参考）
// Ａ０１Ｍ 1/02	Ａ０１Ｍ 1/02	Ａ	
Ａ０１Ｍ 1/20	Ａ０１Ｍ 1/20	Ａ	
Ａ０１Ｍ 29/00	Ａ０１Ｍ 29/00	Ｒ	